

原子力災害とは、放射性物質が原子力発電所から大量に漏れ、周囲の住民に影響を及ぼすことです。

火災や地震、風水害などとは違い、目で見えない、熱くもないという、五感で感じるできない放射線による「被ばく」が原因で健康に影響を与えます。

福島県内では、東京電力の福島第一原子力発電所の廃炉作業が今後30年から40年かかると言われており、福島第二原子力発電所にも使い終わった核燃料が貯蔵されていることから、将来にわたり絶対に原子力災害が起きないとは言い切れません。

この手引きは、万が一原子力災害が起きた場合に、被ばく量を減らし「健康に影響が出ないように、安全に行動するべきこと」をまとめたものです。



原子力災害のイメージ図